

教科	芸術	科目	書道 I			単位数	2 単位
学科	普通科 工業科	履修 学年	1 学年	コース		必修・選択	必修
教科書	東京書籍『書道 I』						
副教材等	教育図書『硬筆レッスン帳』						

学習目標	<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方はたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の多様性について幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じて意図に基づいて表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>			
	<p>指導の重点</p> <p>(1) 基本的な書写能力を高める指導を目指します。</p> <p>(2) 様々な体験活動を通して、個の芸術的能力（表現および鑑賞の能力・美的感覚・直感性・想像力・思考力・理解力・コミュニケーション力）を最大限に発揮できる指導を目指します。</p>			
学習計画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	<p>▼ガイダンス (2)</p> <p>▼漢字の基本用筆と技法研究 (2)</p> <p>▼楷書の学習 (6) ①牛概造像記 ②鄭義下碑 ③建中告身帖</p> <p>▼刻字 (南高祭作品) (10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書道」と「書写」との違いを知る</li> <li>・書道 I の目標を理解する</li> <li>・文房四宝について知る</li> <li>・ひらがなの字源を考え理解する</li> <li>・筆で線を引き文字を書く →筆の可能性と使い方を知る →墨の状態で表現が変わることを知る (濃淡・潤渇・緩急)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>全古典共通 (通年)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代背景や作者、作品の内容を理解する</li> <li>・古典を細部まで鑑賞する</li> <li>・古典を臨書する (半紙)</li> <li>・(創作)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習してきた古典から得意なものを選択し、古典のもつ特徴を生かして創作する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・ワークシート</li> <li>・学習記録シート</li> <li>・小テストの成績</li> <li>・授業中の態度</li> <li>・発表</li> </ul> <p>上記を総合的に判断し、評価する。</p>

	2 学期 (24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼刻字（南高祭作品）（5） ※鑑賞</li> <li>▼篆刻の学習（12）</li> <li>▼行書の学習（7） ①蘭亭序（細字・条幅）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の続きに取り組む</li> <li>・作品を鑑賞し、お互いに感受したことを述べ合う</li> <li>・姓名の白文印を刻す</li> <li>・篆刻シートにならって進める</li> <li>・時代背景や作者、作品の内容を理解する</li> <li>・古典の細部まで鑑賞する</li> <li>・古典を臨書する（細字）</li> <li>・グループで全紙に合作する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・ワークシート</li> <li>・学習記録シート</li> <li>・小テストの成績</li> <li>・授業中の態度</li> <li>・発表</li> </ul> <p>上記を総合的に判断し、評価する。</p>
	3 学期 (20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼仮名の基本用筆と技法研究（2）</li> <li>▼仮名の学習（8） ①いろは歌（単体） ②蓬萊切</li> <li>▼漢字仮名交じり書の学習（10）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆の持ち方と構え方を理解する →縦線、横線、転折、円運動を習得する</li> <li>・時代背景や作者、作品の内容を理解する</li> <li>・古典の細部まで鑑賞する</li> <li>・古典を臨書する</li> <li>・自選した和歌を用いて創作する</li> <li>・漢字と仮名との調和を考えて創作する</li> <li>・詩歌を自選する</li> <li>・制作した落款印を押印する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・ワークシート</li> <li>・学習記録シート</li> <li>・小テストの成績</li> <li>・授業中の態度</li> <li>・発表</li> </ul> <p>上記を総合的に判断し、評価する。</p>
<b>計 6 4 時間（5 5 分授業）</b>				
<b>評価規準と 評価方法</b>	<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	
	(1) 書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解しようとしている。 <b>【知】</b> (2) 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表そうとしている。 <b>【技】</b>	書よさや美しさを感じて意図に基づいて表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えようとしている。	主体的に書の表現および鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
	[評価方法] 以上の観点をつまみ、小テストの成績、授業中の態度・発表、毎時間の作品やワークシート等の提出物、学習記録用紙などから総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。			